

【重要！】

T1・T2 開講の授業については、
Moodle を利用したオンデマンド型の授業となります。

該当期間：

T1→ 5月7日（木）～6月17日（水）

T2→ 6月18日（木）～7月31日（金）

令和2年度

千葉大学大学院 医学薬学府

修士課程 医科学専攻

授業案内（シラバス）

2020

Graduate School of Medical and Pharmaceutical Sciences

2-Year Master Course (Medical Field)

Syllabus

目 次

必修科目

医学薬学研究序説・生命倫理学特論	6
------------------	---

特論科目

先端生命科学特論	7
生体防御医学特論	8
薬物療法情報学特論	10
臨床医科学特論	11
先端治療学特論	12
公衆衛生学特論	13
遺伝情報応用学特論	14
臨床精神心理学特論	16
肉眼解剖学特論	17
サステイナブル環境健康科学/環境健康科学特論	18
メンタルヘルスサポート学特論	19

履修登録について

- ① 履修登録は学生ポータルで行ってください。
- ② 履修登録の取り消しは、履修登録期間に行えます。ただし、当該ターム以降に開講するもののみ取り消すことが可能です。（既に講義が終了しているものについて、取り消すことは出来ません。）
- ③ 次に該当する場合には、事務的に履修登録を削除します：・上限単位を超えた登録・履修不可の科目登録・重複履修不可科目の重複登録

医学薬学府ホームページ <https://m.chiba-u.jp/>

学生ポータル <https://cup.chiba-u.jp/campusweb/campusportal.do>

Moodle <https://moodle2.chiba-u.jp/moodle20/>

修士課程医科学専攻 時間割

令和2年度（2020年度）前期（T1-3）授業時間割

時限	月	火	水	木	金
I 8:50～ 10:20	遺伝情報応用学特論	先端生命科学特論			
II 10:30～ 12:00	公衆衛生学特論	薬物療法情報学特論			
III 12:50～ 14:20	Moodleによるメディア授業				
IV 14:30～ 16:00					
V 16:10～ 17:40			生体防御医学特論		
VI 17:50～ 19:20		臨床精神心理学特論	医学薬学研究序説・ 生命倫理学特論 (120周年記念講堂)	先端治療学特論	臨床医科学特論

集中講義：	肉眼解剖学特論	(2020年度8月集中開講予定，2021年度は開講予定なし)
	サステイナブル環境健康科学/ 環境健康科学特論	(集中開講予定)
	臨床精神心理学特論	(2020年度開講予定，2021年度は開講予定なし)
	メンタルヘルスサポート学特論	VOD科目

令和3年（2021年度）前期（T1-3）授業時間割（予定）

時限	月	火	水	木	金
I 8:50～ 10:20	生体防御医学特論	先端治療学特論			
II 10:30～ 12:00		臨床医科学特論			
III 12:50～ 14:20					
IV 14:30～ 16:00					
V 16:10～ 17:40			公衆衛生学特論		
VI 17:50～ 19:20		薬物療法情報学特論	医学薬学研究序説・ 生命倫理学特論 (120周年記念講堂)	遺伝情報応用学特論	先端生命科学特論

集中講義：	サステイナブル環境健康科学/ 環境健康科学特論	(集中開講予定)
	メンタルヘルスサポート学特論	VOD科目

2020年度（令和2年度）授業カレンダー

前 期							
	日	月	火	水	木	金	土
4 月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
5 月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6 月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
7 月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
8 月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9 月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
T1		8	8	8	8	8	
T2		8	8	8	8	8	
T3	8～9月（集中講義、留学生受入れプログラム等）						

前 期	卒業式・大学院修了式・学位記授与式：9月28日(月)
----------------	----------------------------

後 期							
	日	月	火	水	木	金	土
10 月					①	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11 月	1	2	3	4	5(火)	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12 月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
1 月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12(月)	13(金)	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2 月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28						
3 月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
T4		8	8	8	8	8	
T5		8	8	8	8	8	
T6	2～3月（集中講義、留学生受入れプログラム等）						

後 期	入学式：10月1日(木)※実施している研究科・学府については、 部局の判断において休講とし、振替日を設定出来る。 大学祭：10月30日(金)～11月1日(日) 創立記念日：11月5日(木) 11月5日(木)は、火曜授業日 1月12日(火)は、月曜授業日 1月13日(水)は、金曜授業日 1月15日(金)は、大学入学共通テスト準備 卒業式：3月23日(火) 大学院修了式・学位記授与式：3月25日(木)
----------------	---

予備日
補講週間(補講は6限目に実施。通常授業あり。)

2020年度（令和2年度）学年暦

期	ターム	事項	日程	備考
前期		春季休業期間	4月1日（水） ～5月6日（水）	
	第1ターム	授業期間	5月7日（木） ～6月17日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録・修正期間：4月27日（月）～5月20日（水） 補講週間：6月4日（木）～10日（水） 予備日：6月20日（土）
	第2ターム	授業期間	6月18日（木） ～7月31日（金）	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録・修正期間：6月11日（木）～7月1日（水） 補講週間：7月16日（木）～22日（水） 予備日：8月1日（土）
	第3ターム	夏季休業期間 （集中講義等）	8月3日（月） ～9月30日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業期間 集中講義等を実施 大学院修了式・学位記授与式：9月28日（月）
後期	第4ターム	授業期間	10月1日（木） ～11月30日（月）	<ul style="list-style-type: none"> 大学院入学式：10月1日（木） 履修登録・修正期間：10月1日（木）～14日（水） 大学祭：10月30日（金）～11月1日（日） 創立記念日：11月5日（木） 火曜授業日：11月5日（木） 補講週間：11月16日（月）～20日（金） 予備日：12月5日（土）
	第5ターム	授業期間	12月1日（火） ～2月3日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録・修正期間：12月1日（火）～14日（月） 冬季休業期間：12月26日（土）～1月3日（日） 月曜授業日：1月12日（火） 金曜授業日：1月13日（水） 臨時休業日（大学入学共通テスト準備）：1月15日（金） 補講週間：1月21日（木）～27日（水） 予備日：2月4日（木）
	第6ターム	臨時休業期間 （集中講義等）	2月4日（木） ～3月31日（水）	<ul style="list-style-type: none"> 臨時休業期間 集中講義等を実施 大学院修了式・学位記授与式：3月25日（木）

J274101AA	科目名【医学薬学研究序説・生命倫理学特論】	Subject【 Research Methodologies and Life Ethics 】
科目責任者/Organizer:	本橋 新一郎 MOTOHASHI Shinichiro	単位/Credit: 1 実施時期/Conducted:
目的・目標 /Objectives and Goals	<p>【目的】</p> <p>医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究倫理に則り自ら研究課題を設定し、自立した研究活動を行う能力を修得するための基礎となる知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理、研究倫理について理解し、医学研究者としての行動規範に自覚を持つ。 ・千葉大学における情報セキュリティ規範を理解し、適切な情報処理を実施できる。 ・微生物の取り扱いを理解し、感染事故を予防できる。 ・医薬品、試薬の適切な取り扱いを学び、安全に実験実施できる。 ・医薬バイオ分野の知財について理解し、特許について考察できる。 ・臨床試験の手順を理解し、臨床試験計画を検討できる。 ・英語論文の構造を理解し、博士論文を執筆できる。 	<p>【Objectives】</p> <p>In this subject, students are required to learn basic knowledge to be independent researchers, so that they can acquire abilities to find research topics and conduct research activities in conformity with research ethics.</p> <p>【Goals】</p> <p>Students are expected to acquire the following knowledge and skills:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・To understand bioethics and research ethics, and to observe code of conduct as a medical researcher. ・To understand information security standards of Chiba University, and to conduct appropriate information processing. ・To understand the handling of microorganism and to prevent infections. ・To learn appropriate management of drugs and reagents, and to conduct experiments safely. ・To understand the Intellectual Property (IP) in the fields of Medicine, Pharmaceutical Sciences, and Biotechnology, and also the patenting process. ・To understand clinical trial procedures enough to make clinical trial design. ・To understand the structure of English articles enough to write doctoral dissertations.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>第1回 4月 8日(水)(1)17:50~18:35・(2)18:35~19:20 (1)病原性微生物を扱う研究者のために・・・ -どのようにして事故を防ぐか- 真菌医学研究センター 亀井 克彦 教授 (2)医薬品および試薬の取り扱いについて 附属病院薬剤部部長 石井伊都子 教授</p> <p>第2回 4月15日(水)★ 研究倫理について 倫理審査委員会委員長 伊豫 雅臣 教授</p> <p>第3回 4月22日(水) 英語論文の書き方について 医科学教室(英語論文の書き方講座) 講師 ミリンダハル氏</p> <p>第4回 5月13日(水)★情報処理の方法及び情報セキュリティ 情報システム管理者 白澤 浩 教授</p> <p>第5回 5月20日(水) 薬剤の臨床試験について 附属病院臨床試験部部長</p> <p>第6回 5月27日(水) 医療バイオ分野の知財について 未来医療教育研究機構 品川 陽子 特任講師 小池 順造 特任講師 花岡 英紀 教授</p> <p>第7回 6月3日(水)★ 生命倫理について① 法政経学部 川瀬 貴之 准教授</p> <p>第8回 6月3日(水)★ 生命倫理について② 法政経学部 川瀬 貴之 准教授</p> <p>講義室 医薬系総合研究棟Ⅱ1階 薬学部創立120周年記念講堂</p>	<p><No.1> Apr 8 (Wed) (1) 17: 50-18: 35 (2) 18: 35-19: 20 (1) For Researchers handling of Pathogenic Microorganisms -How to Prevent Accident- Professor Katsuhiko Kamei, Medical Mycology Research Center (2) Handling of Drugs and Reagents Professor Itsuko Ishii, Director, Department of Pharmacy, Chiba University Hospital <No.2> Apr 15 (Wed)★ Research Ethics Professor Masaomi Iyo, Chairman of the Ethics Review Committee <No.3> Apr 22 (Wed) Academic Writing: How to Write a Research Paper in English. Ms. Melinda Hull, CACTUS Communications K.K. <No.4> May 13 (Wed)★ Information Processing Methods and Information Security Professor Hiroshi Shirasawa, Information System Manager <No.5> May 20 (Wed) Clinical Trial of Drugs Professor Hideki Hanaoka, Director, Clinical Research Center, Chiba University Hospital <No.6> May 27 (Wed) The Intellectual Property (IP) in the fields of Medicine, Pharmaceutical Sciences, and Biotechnology Specially Appointed Lecturer, Yoko Shinagawa Specially Appointed Lecturer, Junzo Koike <No.7> Jun 3 (Wed)★ Bioethics ① Associate Professor, Takayuki Kawase, Faculty of Law, Politics & Economics <No.8> Jun 3 (Wed)★ Bioethics ② Associate Professor, Takayuki Kawase, Faculty of Law, Politics & Economics Venue: 120th Anniversary Memorial Lecture Hall (1F) in Medical & Pharmaceutical Science Building II</p>
授業外学習 /Self Study	<p>本講義で取り扱っている内容は、医学研究における基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとする。</p> <p>第2回終了後にeAPRINの受講についての指示が行われる。指定されたe-learningを受講し、受講完了証を期日までに安鼻地区事務部学務課大学院係へ提出すること。</p>	<p>In this subject, we cover the basis of medical research, which you will definitely need in the future. Therefore, you are expected to review the given handouts after each class, until you fully understand what you learned. After the 2nd lesson, you will be instructed to take eAPRIN. Make sure to take assigned e-learnings, and to submit the Course Completion Report to the Inohana Campus Graduate School Office.</p>
キーワード /Keywords	情報セキュリティ, 生命倫理, 研究倫理, 臨床研究, 感染予防, 化学物質の適正管理, 知財, 英語論文の書き方	Information Security, Bioethics, Research Ethics, Clinical Research, Infection Prevention, Proper Management of Chemicals, Intellectual Property, Writing English Articles
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	<p>講義に際して資料を配布する。</p> <p>参考となる資料は次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学安全衛生管理マニュアル 千葉大学総合安全衛生管理機構編 ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 平成26年12月22日 文科省・厚生省 ・THE BELMONT REPORT U.S. Department of Health & Human Services search 	<p>Handouts will be provided during class.</p> <p>Reference Books:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects, December 22, 2014, Ministry of Health, Labor, and Welfare (Provisional Translation July 2018) (https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n2181_01.pdf) ・THE BELMONT REPORT, U.S. Department of Health & Human Services search
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	<p>休講などの講義に係る連絡は、メール通知及び学生ポータルで通知するので、必ず確認してください。</p> <p>本講義の評価は、出席及びレポート課題により行われます。</p> <p>★がついている4回の講義は必ず出席してください。</p>	<p>Make sure to check on your mail account and/or the Student Portal, as important notification, including cancellation of a class, will be either sent to your email account, or announced on the Student Portal.</p> <p>Students will be evaluated based on their attendance and reports.</p> <p>Students are advised to attend four lectures marked with ★.</p>

J272001AA	科目名【先端生命科学特論】	Subject【Frontier Life Science】
科目責任者 /Organizer:	金田篤志/Atsushi Kaneda 単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1-3(Term1st-3rd)火曜日 (Tuesday)I 時限(1st period)
目的・目標 /Objectives and Goals	【目的】 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため、ヒトの主要な臓器について、解剖学、生理学の基礎的系統的な知識を身につける。	【Objectives】 In the fields of medicine, pharmacy and related majors, students are encouraged to understand the basic and systematic knowledge for anatomy and physiology of human major organs to engage in research and education as an independent and leading researcher.
	受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・ヒトの主要な臓器について理解する。 ・解剖学、生理学の基礎的系統的な知識を身につける。	【Goals】 GIO (General Instructional Objective): students are expected to be able to understand human major organs. SBO (Specific Behavioral Objective): students shall explain the basic knowledge of human anatomy and physiology, which is required for diseases and medicine.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。 (第1回4/7～第4回4/28に予定されていた脳・神経系1～4の授業が延期となったため、第5回以降に組み込んで以下のように行う。)</p> <p>第5回 5/12(火)脳・神経系－4,5「脳の機能局在論」(山口教授) 第6回 5/19(火)生殖系系－1「男性生殖系」(市川教授) 第7回 5/26(火)消化器系－1「消化管」(金田教授) 第8回 6/2(火)循環呼吸器系－1「血液」(三村診療講師) 第9回 6/9(火)循環呼吸器系－2,3「血管－1,2」(粕谷准教授) 第10回 6/16(火)脳・神経系－1,3「脳・神経系総論」(斎藤教授) 第11回 6/23(火)循環呼吸器系－4「心臓・肺・腎」(真鍋教授) 第12回 6/30(火)生殖系系－2「女性生殖系」(生水教授) 第13回 7/7(火)消化器系－2「肝・膵」(瀧口教授) 第14回 7/14(火)代謝・内分泌系－1「内分泌細胞の細胞機能」(田中教授) 第15回 7/21(火)代謝・内分泌系－2「代謝・内分泌系の生体制御」(三木教授) 第16回 7/28(火)脳・神経系－2「形態形成、パターン形成」(古関教授)</p>	<p>* Since lectures “Brain & Nervous System 1-4” due from Apr 7 through 28 are postponed, lectures after May 12 will be given as below: 5)May 12 (Tue) Brain & Nervous System-4&5 “Localization of brain function” (A. Yamaguchi) 6)May 19 (Tue) Reproductive System-1 “Male Reproductive System” (T. Ichikawa) 7)May 26 (Tue) Digestive System-1 “Gut” (A. Kaneda) 8)June 2 (Tue) Circulatory & Respiratory System-1 “Blood” (N. Mimura) 9)June 9 (Tue) Circulatory & Respiratory System -2&3 “Blood Vessels-1&2: Structure & Function” (Y. Kasuya) 10) June 16 (Tue) Brain & Nervous System-1&3 “Functional Anatomy” (T. Saito) 11)June 23 (Tue) Circulatory & Respiratory System -4 “Heart, Lung & Kidney” (I. Manabe) 12)June 30 (Tue) Reproductive System-2 “Female Reproductive System” (M. Shozu) 13)July 7 (Tue) Digestive System-2 “Liver & Pancreas” (M. Takiguchi) 14)July 14 (Tue) Metabolism & Endocrine System-1 “Physiology of the Endocrine Cells”(T. Tanaka) 15)July 21 (Tue) Metabolism & Endocrine System-2 “Regulation of Metabolic and Endocrine Homeostasis”(T. Miki) 16)July 28 (Tue) Brain & Nervous System-2 “Morphogenesis & Pattern Formation” (H. Koseki)</p>
授業外学習 /Self Study	本講義で取り扱っている内容は、医学の基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとする。	Writing a report may be required after the lecture.
キーワード /Keywords	脳、神経、生殖系、血液、血管、心臓、肺、腎、消化管、肝臓、膵臓、内分泌、代謝	Brain, Nervous System, Reproductive System, Blood, Blood Vessels, Heart, Lung, Kidney, Gut, Liver, Pancreas, Endocrine, Metabolism
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	講義に際して資料を配布する。	Handouts are provided for each lecture when necessary.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	各回講義後の小テスト/レポートで評価する。	Evaluation: examination/report for each lecture.

J272011AA	科目名【 生体防御医学特論 】	Subject【Special Lectures of Medical Science on Host Defense】
科目責任者 /Organizer:	中島 裕史 単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1-T2 水曜日(Wed)5時限(5thperiod)
目的・目標 /Objectives and Goals	<p>【目的】</p> <p>新興、再興感染症が脅威となる一方で、免疫能を中心とする生体防御の機構が分子、遺伝子のレベルで明らかにされてきている。本授業科目では、主に医学・生命科学研究者を目指す学生を対象として、生体への侵襲と防御機構を統一的に学ぶことにより、その基礎研究および応用に向けた研究能力を習得する。</p> <p>【目標】</p> <p>下記を参照</p>	<p>【Objectives】</p> <p>The global threats of emerging and re-emerging diseases are growing, and at the same time, the detail mechanisms of host defense including immune system are being revealed in molecular and genetic level. In these special lectures, the mode of action of virulent factors and the mechanisms of host defense are introduced, and through the lectures, students will get a good motivation to start their medical research.</p> <p>【Goals】</p> <p>See below</p>
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>全12回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。</p> <p>1回(5/13)~2回(5/20):白澤担当 ウイルスの構造・分類・進化 ウイルス粒子の対称性を理解し、RNAワールドから二本鎖DNAへと進化した7種のゲノム様式を考察することができる。</p> <p>非細胞性生物の複製・転写 核酸(RNA, DNA)上の情報を複製することと転写が同等であることを基に、7種のゲノム様式を理解することができる。</p> <p>3回(5/27):中島担当 医原性免疫不全と日和見感染 膠原病をはじめとする多くの免疫疾患では、免疫抑制療法が行われ、その結果、種々の日和見感染症が引き起こされる。本講義では、近年の免疫抑制療法の特徴及びその危険性を議論する。</p> <p>4回(6/3):彦坂担当 寄生虫感染と宿主応答 内部寄生虫は単細胞生物(原虫)と多細胞生物(蠕虫)に分類することができる。ここでは、これら原虫および蠕虫感染時における宿主免疫応答の違いを理解できるようにする。</p> <p>5回(6/10):亀井担当 感染機構から見た病原真菌の基礎とそれら感染症の臨床像 ヒト深在性真菌症の原因菌の性質と、それらに起因する疾患に関連して、主に原因菌とホストの関係(感染機構)からみた基礎的知見と感染の結果としての臨床像を解説する。</p> <p>6回(6/17):西城担当 病原真菌に対する宿主防御機構 真菌感染防御には、自然免疫と獲得免疫の両方が重要な役割を果たす。本講義では、真菌の認識機構やそこから誘導される獲得免疫機構などの分子機構について紹介する。</p> <p>7回(6/24):幡野担当 ワクチンの作用メカニズム ジェンナーの種痘法発見に始まるワクチンの仕組みの解明の歴史は、免疫学研究の歴史でもある。ここでは、ワクチンの仕組みを分かり易く解説することにより、リンパ球による獲得免疫系の仕組みを理解出来るようにする。</p> <p>8回(7/1):幡野担当 発生工学の生体防御医学研究への応用 発生工学的手法の開発により生体防御反応にかかわる分子の機能が個体レベルでわかるようになった。遺伝子改変マウスの作製法とそれらを用いた個体レベルでの生体防御機構の解析法について紹介する。</p> <p>9回(7/8):清水担当 細菌の病原因子とその作用メカニズム 種々の細菌毒素の作用メカニズムを分子レベルで解説する。特に毒素の持つ種々の酵素活性がG蛋白を中心とした生体内情報伝達系にどのような攪乱を引き起こすのかを詳しく紹介する。</p> <p>10回(7/15):八尋担当 細菌の病原因子の制御法 種々の細菌毒素の制御法を分子レベルで解説する。特に毒素の持つ種々の酵素活性をどのようにして制御するのかを詳しく紹介する。生体に入った毒素に対する新しい制御法も紹介する。</p> <p>11回(7/22):米山担当 抗ウイルス自然免疫の分子機構 高等脊椎動物におけるウイルス感染に対する生体防御は、自然免疫と獲得免疫両者によって制御されているが、ここでは、自然免疫におけるウイルス核酸検知とそれによって誘導されるI型インターフェロンを含めた抗ウイルス生体防御機構について解説する。</p>	<p>Lecture 1 (5/13)~2(5/20) : By Prof. H. Shirasawa The structure, classification and evolution of viruses Students can understand the symmetries of virions, and studying the seven types of viral genome, which evolved from an RNA ancestor. The replication and transcription of non-cellular organisms Students can understand the replication of viral genomes from the view point that the transcription and the replication of RNA or DNA have the same mechanism.</p> <p>Lecture 3(5/27): By Prof. H. Nakajima Immune suppression and opportunistic infection Strategies and their risks of immunosuppression will be summarized.</p> <p>Lecture 4(6/3) : By Assistant Prof. K. Hikosaka Parasite infection and its immune response There are two main classes of parasites, protozoa and helminthes. In this lecture, differences of host immune responses to infection of each parasite will be discussed.</p> <p>Lecture 5(6/10) : By Prof. K. Kamei Pathogenicity of fungi and their infections The aim of this lecture is to learn human pathogenic fungi and their related diseases from the aspect of basic science and the clinical medicine. Medical mycology and host-fungus interaction will be discussed in the basic science section.</p> <p>Lecture 6 (6/17): By Associate Prof. S. Saijo Host defense mechanisms against fungal infection Both innate and acquired immune responses are critical to the control of fungal infection. In this lecture, molecular mechanisms against fungal pathogens, including recognition of the microbes and activation of adaptive immune system, will be discussed.</p> <p>Lecture 7(6/24) : By Prof. T. Hatano Functional mechanisms of vaccination. A history of investigation of functional mechanisms of Vaccination discovered by Jenner is almost the same as that of immunological researches. Here, functional mechanisms of vaccination are plainly explained for understanding mechanisms of acquired immunity by lymphocytes.</p> <p>Lecture 8(7/1) : By Prof. M. Hatano Application of genetically engineered mice to biomedical science Over past decade, it has become possible to make any mutation in the germline of mice by utilizing transgenic and gene targeting technology. Gene targeting in ES cells offers a powerful approach to study gene function in a mammalian organism. In this lecture, I will introduce basic gene targeting and transgenic technology and their application to infectious disease and immunology.</p> <p>Lecture 9(7/8): By Associate Prof. T. Shimizu The bacterial virulent factors and the mode of action. The various effects of bacterial toxins on the G-protein-induced signal transduction and their mode of action are introduced.</p> <p>Lecture 10 (7/15): By Associate Prof. K. Yahiro Regulation of bacterial virulent factors. The regulation of various bacterial toxins and the specific inhibitors of the toxins are introduced.</p> <p>Lecture 11(7/22) : By Prof. M. Yoneyama Anti-viral innate immunity. In higher vertebrates, defense against viral infection is regulated by both innate and acquired immunity. Here, molecular machinery underlying anti-viral innate immunity, including recognition of viral infection and action of type I interferons, will be discussed.</p>

J272011AA	科目名【 生体防御医学特論 】	Subject【Special Lectures of Medical Science on Host Defense】
	<p>12回(7/29): 中山担当 免疫システムの成り立ち 免疫システムの成立に関して解説する。自然免疫、獲得免疫系に関与する細胞の機能、作用機能分子群の解説を行う。 免疫システムの破綻と疾患 免疫システムが破綻した場合におこる、疾患(自己免疫疾患、アレルギー、癌など)の発症機構、臨床研究に関して解説する。</p>	<p>Lecture 12(7/29): By Prof. T. Nakayama Development of Immune System Development of T and B lymphocytes, Functional Molecules that Regulate Immune Responses. Immune Disease Allergy, Autoimmune Diseases, Cancer, Infectious Diseases. Therapeutic Strategy and Ongoing Clinical Trials for Cancer.</p>
授業外学習 /Self Study	各回終了後には講義ノートをくりかえし復習し、自分のものとする。	After each lecture, review the lecture notes
キーワード /Keywords	感染症、免疫学、病原体	Infection, Immunology, Pathogen
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	適宜、参考書を紹介し、ハンドアウト等を配布する。	Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	出席状況、テスト、レポート等で総合的に判断する。	Judged by attendance, examination, reports, etc.

J271031AA	科目名【薬物療法情報学特論】	Subject【Pharmacotherapy Informatics】
科目責任者/Organizer:	石井伊都子	単位/Credit: 2 実施時期/Conducted: T1-2(Term 1st-2nd) 火曜日(Tuesday) II 時限(2nd period)
目的・目標 /Objectives and Goals	<p>【目的】</p> <p>疾病に対する薬物療法は、個人個人に合ったテーラーメイドの薬物療法が求められるようになってきている。本授業科目では、主に医療と社会とのコーディネーターを目指す学生を対象として、薬物療法を遺伝的背景・情報を加味した生体反応のレベルで学ぶことにより、これらの知識を社会に還元できる能力を習得する。</p>	<p>【Objectives】</p> <p>Recently it has been recognized that the most appropriate and personalized pharmacotherapy should be selected for each patient. In this subject, the master course students who are willing to work in the field of medical care learn pharmacogenetic factors responsible for variability in drug response.</p>
	<p>【目標】</p> <p>受講者は次の事項を実行できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物の作用の発現機構を含めた薬力学の基本的概念の理解 ・薬物動態理論の実践と個別化医療 ・循環器疾患、呼吸器疾患、消化器・肝疾患、アレルギー・自己免疫疾患、がんの薬物治療の基礎的理解 ・複合薬物としての和漢薬への理解 	<p>【Goals】</p> <p>GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Basic concept of pharmacodynamics and the process of drug development. ・ Practical Pharmacokinetics and personalized medicine. ・ Pharmacological treatment of cardiovascular diseases, respiratory diseases, mental disorders, gastroenterology and hepatology, allergic diseases and autoimmune diseases, cancer and Kampo (herbal)
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>第1回 5/12 (火) 薬物療法情報学序論 (石井教授)</p> <p>第2回 5/12 (火) 薬物動態の基礎理論 (石井教授)</p> <p>第3回 5/19 (火) 精神疾患の薬物療法 (伊豫教授)</p> <p>第4回 5/26 (火) 薬物動態理論の実践 (鈴木講師)</p> <p>第5回 6/2 (火) 循環器疾患の薬物療法 (宮内講師)</p> <p>第6回 6/9 (火) 呼吸器疾患の薬物療法 (巽 教授)</p> <p>第7回 6/16(火) 薬物の作用と受容体(橋本准教授)</p> <p>第8回 6/23(火) 消化器・肝疾患の薬物療法 (加藤准教授)</p> <p>第9回 6/27(土) 患者遺伝子情報の薬物療法への活用 (鈴木講師)</p> <p>第10回 6/30(火) アレルギー・自己免疫疾患の薬物治療 (中島教授)</p> <p>第11回 7/7 (火) 和漢薬療法 (並木准教授)</p> <p>第12回 7/14(火) がんの薬物療法 (滝口教授)</p> <p>第13回 7/21 (火) 薬物の主作用と副作用の機序(橋本准教授)</p> <p>第14回 7/28(火) 臨床検査値を用いた個別化医療 (石井教授)</p> <p>第15回 7/28(火) 総論・まとめ (石井教授)</p>	<p>1) 1)May12 (Teu) Introduction of pharmacotherapy and drug infomation (Ishii)</p> <p>2) May12 (Teu) Fundamental pharmacokinetics (Ishii)</p> <p>3) May19 (Teu) Pharmacological treatment of mental disorders (Iyo)</p> <p>4) May26 (Teu) Practical pharmacokinetics (Suzuki)</p> <p>5) Jun2 (Teu) Pharmacological treatment of cardiovascular diseases (Miyaochi)</p> <p>6) Jun9 (Teu) Pharmacological treatment of respiratory diseases (Tatsumi)</p> <p>7) Jun16 (Teu) Drug-receptor interactions and drug effects (Hashimoto)</p> <p>8) Jun23 (Teu) Pharmacological treatment in the field of gastroenterology and hepatology (Kato)</p> <p>9) Jun27 (Sat) Use of genetic information on medication (Suzuki)</p> <p>10) Jun30 (Teu) Medication for allergic diseases and autoimmune diseases (Nakajima)</p> <p>11) Jul7(Teu) Pharmacological treatment by Kampo (herbal) medicines (Namiki)</p> <p>12) Jul14 (Teu) Cancer chemotherapy (Takiguchi)</p> <p>13) Jul21 (Teu) Personalized medicine using laboratory data (Ishii)</p> <p>13) Jul28 (Teu) Overview of drug infomation and pharmacotherapy (Ishii)</p>
授業外学習 /Self Study	<p>本講義は薬物治療における基礎であり、正確な理解が求められる。そのため、受講者は各回終了後に講義プリントを繰り返し復習すること。</p>	<p>This class is the foundation of drug treatment and requires accur</p>
キーワード /Keywords	<p>薬物療法、医薬品情報、薬物の作用・副作用、薬物動態学</p>	<p>Pharmacotherapy, drug information, drug action & side effects, pharmacokinetics</p>
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	<p>看護の基礎科学7「薬とのかかわり：臨床薬理学」日本看護協会出版会(参考書)、</p> <p>「臨床薬物動態学」加藤隆一著 南江堂(参考書)</p>	<p>Reference reading will be suggested, and handout are provided.</p>
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	<p>各回講義後の小テスト、レポート等で総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義での小テスト 90% ・最終レポート 10% <p>オムニバス形式で開講するため、個別のフィードバックは実施しない。</p>	<p>Evaluation:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Test in each lecture is 90% ・ Final report is 10% <p>No individual feedback will be provided because this class will be offered in omnibus format.</p>

J272021AA	科目名【臨床医科学特論】	Subject【Molecular Mechanism and Pathophysiology of the Diseases】
科目責任者/Organizer:	池原 謙 (Yuzuru Ikehara) 単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1-2(Term 1st-2nd) 金曜日(Friday)6時限(6th period) 講義室:第一講義室(※7月9日(木)4,5時限は第二講義室)
目的・目標 /Objectives and Goals	【目的】 疾患の病因、病態生理の解明が遺伝子のレベルで急速に進んでいる。本授業科目では、本専攻系の全ての学生を対象として、医学の根幹をなす各種基本的疾患の病因、病態を理解し、診断学、治療学の原理、方法論を学ぶ。	【Objectives】 Recent studies have elucidated the causative mechanism and pathophysiology of diseases on a molecular basis. In this class, all lectures are focused on the 2-year graduate students who learn how to diagnose and treat the patients through the understanding of the molecular mechanism and pathophysiological states of diseases.
	【目標】 疾病の診断と治療法について理解し、臨床医科学の発展に必要な知識を整理する能力、および考察力を身につける。	【Goals】 Understand the diagnosis and treatment methods for diseases, acquire the ability to organize the knowledge necessary for the development of clinical medical science, and acquire the ability to think.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>1回(4/10)6限 第1講義室:池原担当 臨床医学総論 I: 病理総論。現在の検査診断・治療技術を解説する。</p> <p>2回(4/17):予備日</p> <p>3回(4/24)6限 第1講義室:岸本担当 癌転移の分子機構: 癌転移に関与する分子とそのメカニズムについて概説する。</p> <p>4回(5/1)6限 第1講義室:大平担当 外科学1: 外科学の概要(歴史、意義、役割など)と関連する基本事項(診察、栄養療法、止血、創傷処置など)について解説する。</p> <p>5回(5/8)6限 第1講義室:三橋担当 婦人科腫瘍学1: 子宮腫瘍の発生機序と分子メカニズム、診断、治療について解説する。</p> <p>6回(5/15)6限 第1講義室:高野担当 膵臓腫瘍: 膵臓における上皮間葉系移行の可塑性による癌進展機序について解説する。</p> <p>7回(5/22)6限 第1講義室:三橋担当 婦人科腫瘍学2: 卵巣腫瘍の発生機序と分子メカニズム、診断、治療について解説する。</p> <p>8回(5/29)6限 第1講義室:市川担当 泌尿器腫瘍1: 前立腺癌の診断における分子生物学について解説する。</p> <p>9回(6/5)6限 第1講義室:新井担当 がん化学療法概論: がんの分子メカニズムに基づき、分子標的治療・免疫チェックポイント阻害治療の最近の進歩について解説する。</p> <p>10回(6/12)6限 第1講義室:岩立担当 脳神経外科学: 脳腫瘍の発生・進行のメカニズム、および診断、治療法について解説する。</p> <p>11回(6/19)6限 第1講義室:早野担当 外科学2: 消化器外科の特殊性と関連する基本的事項(疾患、診断、治療、術前・術後管理など)について解説する。</p> <p>12回(6/26)6限 第1講義室:市川担当 泌尿器腫瘍2: 前立腺癌の新規治療法について解説する。</p> <p>13回(7/3)6限 第1講義室:岸本担当 免疫病理学: 生体防御機構である炎症反応と、その異常によって発症するアレルギー、自己免疫疾患の病理学的基礎について解説する。</p> <p>14回(7/9)4限 第2講義室:吉野担当 肺がん: 肺癌の発生機序と分子メカニズム、診断、治療について解説する。</p> <p>15回(7/9)5限 第2講義室:池原担当 臨床医学総論 II: 腫瘍の病理、検査診断、治療、技術開発について解説する。</p> <p>16回(7/17)6限 第1講義室:池田担当 病理総論と診断病理学: 臨床医学特論を振り返り、腫瘍を中心に臨床各科における病理診断学を解説する。</p>	<p>1st(4/10)6th period Lecture room1:Ikehara Clinical Medicine – General I: To study general pathology, and current approaches for disease detection and diagnosis.</p> <p>2nd(4/17):Reserved</p> <p>3rd(4/24)6th period Lecture room1:Kishimoto Molecular mechanisms of cancer metastasis: Molecular mechanisms of cancer metastasis are discussed.</p> <p>4th(5/1)6th period Lecture room1:Ohira Surgery I: Lecture on basic articles including diagnosis, nutrition, hemostasis and wound healing in surgery</p> <p>5th(5/8)6th period Lecture room1:Mitsuhashi Gynecologic Oncology and Pathology I: Uterine oncology and pathology. Lecture on diagnosis, treatment, and carcinogenesis of uterine tumors</p> <p>6th(5/15)6th period Lecture room1:Takano Pancreatic cancer: Molecular mechanisms and EMT-MET plasticity in pancreatic cancer progression</p> <p>7th(5/22)6th period Lecture room1:Mitsuhashi Gynecologic Oncology and Pathology II: Ovarian oncology and pathology. Lecture on diagnosis, treatment and carcinogenesis of ovarian tumors.</p> <p>8th(5/29)6th period Lecture room1:Ichikawa Genitourinary cancer I: To study the role of molecular biology in screening and diagnosis of prostate cancer</p> <p>9th(6/5)6th period Lecture room1:Arai Introduction to Cancer Chemotherapy: To learn recent advancement of molecular-targeted therapy and immune-checkpoint therapy of cancer.</p> <p>10th(6/12)6th period Lecture room1:Iwadate Neurosurgery: Lecture on the diagnosis and treatment of brain tumors.</p> <p>11th(6/19)6th period Lecture room1:Hayano Surgery II: Lecture on basic articles including diseases, diagnosis, treatment, pre and post-operative management in gastroenterological surgery</p> <p>12th(6/26)6th period Lecture room1:Ichikawa Genitourinary cancer II: To study the new therapies for prostate cancer</p> <p>13th(7/3)6th period Lecture room1:Kishimoto Immunopathology: 1) Mechanism of inflammatory response 2) Pathological basis of allergy and autoimmune diseases</p> <p>14th(7/9)4th period Lecture room2:Yoshino Lung cancer: To study lung carcinogenesis and molecular targets of treatments for lung cancer.</p> <p>15th(7/9)5th period Lecture room2:Ikehara Clinical Medicine – General II: Definition of etiology and pathogenesis to develop rational medical practice, by using or applying new technology.</p> <p>16th(7/17)6th period Lecture room1:Ikeda General and diagnostic pathology: 1) General concept, Nomenclature, Classification, Etiology 2) Diagnostic pathology in hospital</p>
授業外学習/Self Study		
キーワード/Keywords		
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。	Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	出席状況、テスト、レポート等で総合的に判断する。	Judged by attendance, examination, reports, etc.

J272031AA	科目名【 先端治療学特論 】	Subject【 Advanced Therapy 】
科目責任者/Organizer: 横手幸太郎 Koutaro Yokote	単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1-3 木 (Thursday) 6時限 (6th period) 講義室: 第一講義室 ※7月30日(木)のみ5時限に講義
目的・目標 /Objectives and Goals	【目的】 主に探索医療に関連する高度専門技術者を目指す学生を対象として、医学・薬学並びに関連する専攻分野に関連する専攻分野の基本知識や最先端の話題を提供し、豊かな知識を身につけ、応用力・理論的な思考力、広い視野、倫理観を養い、情報化・国際化が進む社会の中で医療・研究の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。	【Objectives】 In this course, the master students who are willing to work in the field of translational research learn the basic principles for the advanced therapies to set their own tasks and take intellectual knowledge to contribute to society.
	【目標】 受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 * 先端治療法の基本的原理、最新の話題を学ぶ * 豊かな知識を身につける * 応用力・問題解決能力・広い視野に立った発想力を養う	【Goals】 * Students will learn the basic principles of advanced treatment, the latest topics. * Students will acquire rich knowledge. * Students will cultivate application skills, problem-solving skills, and a broad perspective of imagination.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	全15回の講義からなり、オムニバス形式で講義を実施する。 第1回 4/16(木)心血管疾患の病態生理に関する新発見 (宮内先生) 第2回 4/23(木)造血性サイトカイン(G-CSF)による心筋梗塞の新たな治療法 (高野先生) 第3回 4/30(木)心筋再生とその臨床応用 (神田先生) 第4回 5/7(木)小児神経疾患の先端治療学 (藤井先生) 第5回 5/14 (木) 小児感染性疾患の先端治療学 (菱木先生) 第6回 5/21 (木) 小児アレルギーの先端治療学 (中野先生) 第7回 5/28 (木) 消化器病学におけるトランスレーショナルリサーチとリバーストランスレーショナルリサーチ (加藤教授) 第8回 6/4 (木) がん免疫療法の先端治療学 (本橋教授) 第9回 6/11 (木) 頭頸部癌の最新治療 (花澤教授) 第10回 6/18 (木) 核酸医療に実現を目指した先端D D S材料開発 (秋田教授) 第11回 6/25 (木) 人工膝関節について (鈴木教授) 第12回 7/2 (木) 2型糖尿病治療に対する外科的アプローチ(林教授) 第13回 7/9 (木) がん治療の基盤とその臨床応用(永瀬先生) 英語 第14回 7/16 (木) 血液学における先端治療 (武藤先生) 第15回 7/30 (木) 内分泌疾患の分子病態 (横手教授, 鈴木先生) 5限	1) April 16 (Thu) Cardiovascular continuum; Current topics of cardiovascular disease (Miyachi) 2) April 23 (Thu) Advanced therapies for G-CSF therapy for myocardial infarction (Takano) 3) April 30(Thu)Cardiac regeneration and its clinical application (Kanda) 4) May 7 (Thu) Recent advances in neurological diseases in childhood (Fujii) 5) May 14 (Thu) Recent advances in pediatric infectious diseases (Hishiki) 6) May 21 (Thu) Recent advances in allergic diseases in childhood (Nakano) 7) May 28 (Thu) Translational Research and Reverse Translational Research in Gastroenterology (Kato) 8) June 4 (Thu) Latest advances in cancer Immunotherapy (Motohashi) 9) June 11 (Thu)Recent advances in head & neck cancer(Hanazawa) 10) June 18 (Thu) Advanced nanoDDS technologies towards nucleic acid therapy (Akita) 11) June 25 (Thu) Artificial knee joint (Suzuki) 12) July 2(Thu)Surgical approaches to treat type 2 diabetes (Hayashi) 13) July 9 (Thu) Fundamental technology and clinical application of oncotherapy (Nagase) English 14) July 16 (Thu) Advanced therapies for hematology (Muto) 15) July 30 (Thu) Molecular pathogenesis of endocrine disease (Suzuki) 5th period
授業外学習 /Self Study	授業終了後、各講義で配布されたプリントなどを用いて復習する。	Review by reading references and handouts.
キーワード /Keywords	先端治療、研究、医療、病態、生理、応用、開発	advanced therapy, research, medical, pathology, physiology, application, development
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。	Reference readings will be suggested, and handouts are provided when needed.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	授業態度、テスト、レポート等で総合的に判断する	Evaluated by learning attitude, examination, reports, etc.

J271001AA	科目名【 公衆衛生学特論 】	Subject【 Public health 】
科目責任者/Organizer:	<p>諏訪園 靖 (Yasushi Suwazono) [科目責任者 (Organizer)] 【環境労働衛生学 (Occupational and Environmental Medicine) 内線 (Ext) 5191】 能川 和浩 (Kazuhiro Nogawa) 【環境労働衛生学 (Occupational and Environmental Medicine) 内線 (Ext) 5193】 尾内 善広 (Yoshihiro Onouchi) 【公衆衛生学 (Public Health) 内線 (Ext) 5201】 櫻井 健一 (Kenichi Sakurai) 【予防医学センター (Center for Preventive Medical Sciences) 内線 (Ext) 5073】 近藤 克則 (Katsunori Kondo) 【予防医学センター (Center for Preventive Medical Sciences)】 戸高 美子 (Emiko Todaka) 【予防医学センター (Center for Preventive Medical Sciences)】 櫻井 勝 (Masaru Sakurai) 【環境労働衛生学 (Occupational and Environmental Medicine) 内線 (Ext) 5193】 東川 麻子 (Asako Higashikawa) 【環境労働衛生学 (Occupational and Environmental Medicine) 内線 (Ext) 5193】 上谷 実礼 (Mirei Uetani) 【環境労働衛生学 (Occupational and Environmental Medicine) 内線 (Ext) 5193】</p>	<p>単位/Credit: 2</p> <p>実施時期/Conducted: T1-2 (Term1st-2nd): II 10:30~ 12:00 月曜日 (Monday) 第一講義室 (Lecture room 1)</p>
目的・目標 /Objectives and Goals	<p>【目的】 公衆衛生学は、衛生行政、地域保健(母子保健、学校保健、老人保健、精神保健)、環境・産業保健にわたる事ができる。これらの公衆衛生全般の知識を学習する。</p> <p>【目標】 本特論では、実際の現場のニーズに応えられる人材育成が求められる事から、疫学および医学統計学の基礎的な知識と方法を学習し、実際の事例を使って、実践的な能力獲得を目指す。</p>	<p>【Objectives】 Public health addresses the health of the population as a whole rather than medical health care, which focuses on treatment of the individual ailment. The mission of public health is defined as "fulfilling society's interest in assuring conditions in which people can be healthy."</p> <p>【Goals】 Goals of this course would be to learn basic knowledge and methodology of public health, and to consider application to overcome public health issues in the society.</p>
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<p>1回(4/8): 諏訪園担当 公衆衛生学総論「健康の定義、予防医学、健康指標、公衆衛生活動についてまなぶ」 2回(4/13): 尾内担当 母子保健・学校保健 「母子保健、学校保健の現状と課題をまなぶ」 3回(4/20): 近藤担当 超高齢社会の高度専門職に求められるもの 4回(4/27): 諏訪園担当 疫学総論「疫学の定義と歴史についてまなぶ」 5回(5/11): 能川担当 環境衛生学1「環境中毒学についてまなぶ」 6回(5/18): 櫻井(勝)担当 疫学の方法「職場における疫学研究の実践」 7回(5/25)・8回(6/1): 尾内担当 医学統計学-1「医学統計学の知識、方法についてまなぶ」 医学統計学-2「医学統計学の知識、方法についてまなぶ」 9回(6/8): 能川担当 環境衛生学2「環境中毒学についてまなぶ」 10回(6/15): 近藤担当 健康格差社会と健康の社会的決定要因 11回(6/22)・12回(6/29): 上谷担当 産業衛生1「産業衛生の目的、現状と課題についてまなぶ」 産業衛生2「産業保健、産業中毒学、法規についてまなぶ」 13回(7/6)回: 東川担当 産業保健各論「働き方の変化と課題について」 14回(7/13): 櫻井(健)担当 環境保健総論「生活習慣病の現状と予防について～糖尿病をモデルとして～」 15回(7/20): 戸高担当 環境保健各論「次世代のために、環境をどのように守っていくかをまなぶ」</p>	<p>1(4/6) Suwazono introduction. Definition of health, preventive medicine, public health 2(4/13) Onouchi Maternal and child health 3(4/20) Kondo Expected role for highly-skilled professionals in a super-aging society 4(4/27) Suwazono Introduction of epidemiology 5(5/11) Nogawa Environmental toxicology and hygiene 1 6(5/18) Sakurai (M) Practice of epidemiological research in the workplace 7(5/25)・8(6/1) Onouchi Biostatistics-1 Biostatistics-2 9(6/8)Nogawa Environmental toxicology and hygiene 2 10(6/15) Kondo Health inequality society and social determinants of health 11(6/22)・12(6/29) Uetani Occupational health 13(7/6) Higashikawa Recent reform of working style 14(7/13) Sakurai(K) The state and prevention of life style related diseases 15(7/20) Todaka Environmental Health for Future Generations</p>
授業外学習 /Self Study	<p>本講義で取り扱っている内容は、医学研究における基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義内容を復習し自分のものにする事。</p>	<p>The content in this lecture is the basis of medical research, requires accurate understanding, and is the content that participants will need in the future. Therefore, review the content of the lecture after each session and make it your own.</p>
キーワード /Keywords	<p>衛生行政、地域保健(母子保健、学校保健、老人保健、精神保健)、環境・産業保健</p>	<p>Health administration, community health (maternal and child health, school health, geriatric health, mental health), environmental and occupational health</p>
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	<p>適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。</p>	<p>Reference books are shown, and handouts provided when required.</p>
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	<p>各回の小テスト、レポートで評価する。</p>	<p>Evaluated by examination and reports, etc.</p>

J271011AA

授業科目 (Subject) : 遺伝情報応用学特論 科目責任者 (Organizer) : 田中知明 (Tomoaki Tanaka) (Clinical genetics: basic principles and application to medicine and legal medicine)		
単位 (Credit) : 2	月曜日 (Monday) I 時限 (1st period) @第一講義室	実施時期 (Conducted) 1-2 ターム (Term1,2)
担当 (Lecturers) : 田中 知明 (Tomoaki Tanaka) [分子病態解析学 (Molecular Diagnosis)] 内線 (Ext) 5450 岩瀬 博太郎 (Hirotaro Iwase) [法医学 (Legal Medicine) 内線 (Ext) 5220] 関根 章博 (Akihiro Sekine) [予防医学センター (Center for Preventive Medical Science) 内線 (Ext) 5207] 尾内 善広 (Yoshihiro Onouchi) [公衆衛生学 (Public Health) 内線 (Ext) 5202] 井上 聡 (Satoshi Inoue) [埼玉医科大学ゲノム医学研究センター(東京都健康長寿医療センター研究所)] [連絡; 分子病態解析学] 内線 (Ext) 5450 川上 英良 (Eiryo Kawakami) [人工知能医学 (AI medicine) 内線 (Ext) 7960] 横山 真隆 [分子病態解析学 (Molecular Diagnosis) 内線 (Ext) 5450] 樋口 誠一郎 (Seiichiro Higuchi) [分子病態解析学 (Molecular Diagnosis) 内線 (Ext) 5450] 松下 一之 (Kazuyuki Matsushita) [附属病院検査部 (Laboratory Medicine) 内線 (Ext) 6200] 西村 基 (Motoi Nishimura) [附属病院検査部 (Laboratory Medicine) 内線 (Ext) 6203]		
目的 : あらゆる領域の疾患の遺伝的要因が日々明らかにされつつある現在、遺伝子・染色体を含む遺伝学的検査や遺伝医学が診療と密接に関わってきている。一方、法医学領域の個人識別においてもDNA情報は不可欠である。 目標 : しかし、これらの遺伝情報を扱うにあたっては倫理的諸問題に対する十分な配慮が求められる。本コースではヒトの遺伝の仕組み、その遺伝情報の取り扱い方について多角的に学ぶ。		Objectives : Virtually any disease is the result of the combined action of genes and environment, but growing evidence indicates the increasing roles of the latter. Consequently, genetics and genetic tests are closely related to any field of clinical medicine as well as legal medicine. Goals : But, one should be aware of ethical issues in dealing with genetics-related private matters. In this course, you are supposed to learn the genetic perspectives on health, disease and legal medicine in multidisciplinary ways.
授業計画・授業内容 : <u><公衆衛生学> 1-4 回</u> 担当 : 尾内(4/6・4/20)、関根(4/27・5/11) 臨床遺伝について「家系図の作成・メンデル遺伝の基礎を学ぶ」 単一遺伝子病について学ぶ、細胞遺伝について学ぶ ミトコンドリア遺伝・多因子遺伝について学ぶ ゲノム医学研究の現状について学ぶ <u><分子病態解析学> 5-11 回</u> 担当 : 西村(4/13)、田中(5/18)、井上(5/25)、横山(6/1)、松下(6/8)、川上(6/15)、樋口(6/22) 遺伝医療と生命倫理 「遺伝医療に関連する解析技術、ガイドラインとバイオエシックスについて学ぶ」(西村) 遺伝カウンセリングの意義 「遺伝カウンセリングの意義について学ぶ」 遺伝カウンセリングの実際 (1)(2) 「遺伝カウンセリングの実際について実例をもとに学ぶ」 「老年医学と加齢関連疾患におけるゲノム解析について学ぶ」(井上)、「内分泌疾患ゲノム」(田中)、「がん/クリニカルシーケンス」(松下)、「心・血管疾患ゲノム」(横山) ヒトゲノムの先端		Course Plans and Contents : <u>4/6・4/20 Yoshihiro Onouchi</u> <u>4/27・5/11 Akihiro Sekine</u> Introduction of medical genetics Mendelian inheritance, clinical cytogenetics, mitochondria disease, multifactorial disease, genomic medicine <u>4/13 Motoi Nishimura</u> <u>5/18 Tomoaki Tanaka</u> <u>5/25 Satoshi Inoue,</u> <u>6/1 Masataka Yokoyama,</u> <u>6/8 Kazuyuki Matsushita</u> <u>6/15 Eiryo Kawakami</u> <u>6/22 Seiichiro Higuchi,</u> Guidelines for clinical genetics and bioethics Methods for gene analysis and genetic tests Basic principles of genetic counseling Practical aspects of genetic counseling (1)(2) Introduction of Genetics in Gerontology (Inoue) Genomics and Computational Science (Kawakami)

<p>「ゲノム技術」(樋口) 遺伝医学と情報工学 「医学研究におけるオミクスデータの利活用」 (川上)</p> <p><法医学> 12-15回 担当：岩瀬(6/29・7/6・7/13・7/20) 法医学総論「法医学の存在意義と、その目的について学ぶ」 法医学と法律、ガイドライン「法医学における鑑定試料に関する法規定とガイドラインに関する知識を修得する」 親子鑑定、現場試料における遺伝情報「親子鑑定の方法や、そのガイドライン、その他現場試料における遺伝情報の有用性に関して学ぶ」 個人識別「身元不明死体に関する個人識別の方法を学ぶ」</p> <p>予備日 7/4(土)</p>	<p><u>6/29・7/6・7/13・7/20: Hirotaro Iwase</u> Introduction of forensic medicine Laws and guidelines in forensic medicine DNA paternity testing Personal identification</p>
<p>授業外学習 (Self study) :</p>	
<p>キーワード (Keywords) :</p>	
<p>教科書・参考書 (Textbooks/ Reference Books) : 適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。(Reference books are shown, and handouts provided when required.)</p>	
<p>評価方法・基準 (Evaluation Procedures) : 出席状況、テスト、レポート等で総合的に判断する。(Judged by attendance, examination, reports, etc.)</p>	
<p>留意事項 (Remarks) : 講義室：医学部第一講義室</p>	

J271021AA	科目名【臨床精神心理学特論】	Subject【Clinical psychology】
科目責任者/Organizer: 伊豫 雅臣(Masaomi Iyo)	単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: 火曜日 (Tuesday) VI時限 (6th period) 講義室: 第一講義室
目的・目標 /Objectives and Goals	【目的】	【Objectives】
	医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究倫理に則り自ら研究課題を設定し、自立した研究活動を行う能力を修得するための基礎となる知識を身につける。	In the fields of medicine, pharmacy and related majors, acquire the basic knowledge to take the ability to perform independent research activities and set independent research activities in accordance with research ethics.
目的・目標 /Objectives and Goals	【目標】	【Goals】
	近年、法と精神医学・医療の重要性が見直されてきている。また、自殺や不登校、引きこもりが大きな社会問題となっている。本授業科目では、医療福祉の従事者のみならず司法関係者をも対象として、精神障害の心理と行動について学ぶことにより、精神障害者支援方法を習得する。	Suicide, school phobia and social withdrawal have been big social problems, and the importance of forensic psychiatry has been focused again in Japan. In this subject, the students, not only those dedicated in medical and welfare areas but also in forensic areas, learn psychology and behavior in people with mental disorders, and master the techniques for supporting these patients.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<ol style="list-style-type: none"> (4/7)法と精神医学1「精神保健福祉法について学ぶ」(五十嵐) (4/14)精神疾患症候学「精神障害にみられる様々な症状について学ぶ」(伊豫) (4/21)精神疾患診断学「精神疾患の分類と診断方法を学ぶ」(伊豫) (4/28)法と精神医学2「心神喪失者等医療観察法について学ぶ」(五十嵐) (5/12)法と心理学1「加害者臨床におけるリスクアセスメント」(東本) (5/19)法と心理学2「加害者臨床の最近の動向」(東本) (5/26)法と精神医学3「精神鑑定について学ぶ」(椎名) (6/2)精神疾病論1「うつ病、双極性障害、物質関連障害」(椎名) (6/9)精神疾病論2「統合失調症について学ぶ」(金原) (6/16)精神療法「認知行動療法の基本」(伊豫) (6/23)薬物療法1「精神疾患への薬物療法」(金原) (6/30)薬物療法2「精神疾患への薬物療法」(金原) (7/7)医療観察法における医療「治療プログラム」(椎名) (7/14)精神疾患への神経科学的アプローチ1「精神疾患の生物学的マーカーの開発とその応用について学ぶ」(橋本) (7/21)精神疾患への神経科学的アプローチ2「精神疾患の動物モデルの作成とその評価方法について学ぶ」(橋本) 	<ol style="list-style-type: none"> (4/7) Law and Psychiatry 1 (Igarashi) (4/14) Clinical signs and symptoms in mental disorders(Iyo) (4/21) Diagnostic criteria in mental disorders (Iyo) (4/28) Law and Psychiatry 2 (Igarashi) (5/12) Law and Psychology 1 (Tomoto) (5/19) Law and Psychology 2 (Tomoto) (5/26) Law and Psychiatry 3 (Shiina) (6/2) Clinical Psychopathology 1 “Depression, Bipolar disorder, and Substance-Related Disorders” (Shiina) (6/9) Clinical Psychopathology 2 “Schizophrenia” (Kanhara) (6/16) Cognitive and Behavioral Therapy (Iyo) (6/23) Pharmacotherapy in Psychiatry1 (Kanhara) (6/30) Pharmacotherapy in Psychiatry2 (Kanhara) (7/7) Treatment Programs in the Medical Treatment and Supervision Act (Shiina) (7/14) Neuroscientific approaches to mental disorders 1 (Hashimoto) (7/21) Neuroscientific approaches to mental disorders 2 (Hashimoto)
授業外学習 /Self Study	本講義で取り扱っている内容は、医学研究における基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとする。	Writing a report may be required after the lecture.
キーワード /Keywords	法学、社会福祉学、心理学、精神医学、神経科学、薬理学	Jurisprudence, Sociology, Psychology, Psychiatry, Neuroscience, Pharmacology
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	適宜、参考書を紹介し、適宜、プリント等を配布する。	Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	出席状況、テスト、レポート等で総合的に判断する。	Judged by attendance, examination, reports, etc.

J273002AA	科目名【 肉眼解剖学特論 】	Subject【 Gross Anatomy 】
科目責任者/Organizer: 森 千里 / Chisato Mori 単位/Credit: 2 実施時期/Conducted: T3 集中講義		
目的・目標 / Objectives and Goals	【目的】 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため肉眼解剖学について知る、理解する、考察する、身につける	【Objectives】 ・In the fields of medicine, pharmacy and related majors, to understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.
	【目標】 受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・生命倫理, 研究倫理について理解し, 医学研究者としての行動規範に自覚を持つ。 ・人体の基本的な構成や各部の機能を説明することができる。	【Goals】 GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand bioethics and research ethics and be aware of the code of conduct as a medical researcher. SBO (Specific Behavioral Objective): students will be able to explain the basic structure of the human body and function of each part.
授業計画・授業内容 / Course Plans and Contents	1日5コマ、3日連続の合計15コマの集中講義を実施する。 8/17(月) 1限 講義 解剖学総論(森)、2限 講義 骨学・筋学(成田) 3限 ガイダンス 4限～5限 演習(骨標本観察) 8/18(火) 1限 講義 中枢神経と末梢神経(小宮山)、2限 講義 上肢と下肢(鈴木) 3限～5限 演習(上肢と下肢の観察) 8/19(水) 1限 講義 呼吸と循環(鈴木)、2限 講義 消化器と泌尿生殖器(成田) 3限～5限 演習(内臓の観察)	Aug.17 (Mon.) Lecture Introduction of Gross anatomy (Mori) Musculoskeletal system (Narita) Practice Guidance Observation of skeletal system Aug. 18 (Tue.) Lecture Nervous system (Komiya) Extremities (Suzuki) Practice Observation of extremities Aug. 19 (Wed.) Lecture Cardiovascular system, Respiratory system (Suzuki) Digestive system, Urinary system, Reproductive system (Narita) Practice Observation of internal organs
授業外学習 / Self Study	本講義で取り扱っている内容は、医学研究における基礎であり、正確な理解が求められるとともに、受講者が将来必ず必要とする内容である。そのため、各回終了後には講義プリントをくりかえし復習し、自分のものとする。	Writing a report and sketches may be required after the lecture.
キーワード / Keywords	献体、肉眼解剖学、機能解剖学	Donation of the body, Gross anatomy, Functional anatomy
教科書・参考書 / Textbooks/Reference Books	講義に際して資料を配布する。 別途教科書・アトラスの入手をお勧めする。	Handouts will be provided as needed though, preparation of a textbook and/or atlas should be required separately.
評価方法・基準 / Evaluation Procedures and Criteria	出席状況、レポート、スケッチ、感想文等で総合的に判断する。 全15コマの出席が可能な学生のみ履修可能である。	Evaluation is based comprehensively on attendance, reports, sketches, and comments. Attending all of 15 classes is MANDATORY to take this course.

J273011AA	科目名【 サステイナブル環境健康科学 】 環境健康科学特論 (サステイナブル環境健康科学+ベルリンorジュネーブorニース研修or英語ビデオ講義)	Subject【 Sustainable Health Science 】
科目責任者/Organizer: 森 千里	単位/Credit: サステイナブル環境健康科学 1 環境健康科学特論 2	実施時期/Conducted: 8月6日(木)、7日(金) 講義室: 第三講義室
目的・目標 /Objectives and Goals	【目的】 近年、サステイナブル(持続可能)な社会の実現が求められている。また、「環境」と「健康」に関する医科学をベースとした専門知識のニーズが高まっている。21世紀は「環境の時代」または「予防医学の時代」とも言われるが、現世代を基準とするのではなく未来世代を基準とした持続可能な地球環境を創造する上では、未来世代が健康に暮らし続ける環境が必須条件である。本授業科目では、予防医学、環境要因・社会要因と健康、生活習慣病に関する疫学、そして未来世代を基準とした環境要因由来の疾病対策としての環境改善型予防医学を発展させた「サステイナブル環境健康科学」について学習する機会を提供する。	【Objectives】 General Instruction Objective (GIO) : This course will provide recent findings and knowledge about environment & human health, epidemiology & risk factors of common diseases, and new preventive medicine or public health focusing on future generations, "Sustainable Health Science". In medical science, it is said that 21st century is the era of preventive medicine. In regard to environmental & social health science, it is necessary to add the idea of improvement of society so that the possible adverse health effect from environment can be prevented by social effort. The purpose of this course is to provide people who can spread the idea of sustainable health science properly.
	【目標】 『環境』と『健康』に関する医科学的専門知識を学び、環境改善型予防医学を実践する人材を育成する。	【Goals】 To learn medical and technical knowledge regarding the environment and health. To grow human resource who could practice "Environmental Preventive Medicine".
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	<第1、2回、3回> 8月6日(木) I 時限(8:50 ~ 10:20)、II 時限(10:30 ~ 12:00)、 III 時限(12:50 ~ 14:20) 担当: 森 千里、戸高恵美子、中岡 宏子 テーマ: ・サステイナビリティ学 総論 ・環境健康学・予防医学 ・未来世代を基準としたサステイナブル環境健康科学 総論 <第4回> 8月6日(木) IV 時限(14:30 ~ 16:00) 担当: 江口 哲史 テーマ: ヒトへの残留性有機汚染物質(POPs)の曝露影響について PCBs, PBDEsなどの残留性有機汚染物質の曝露とヒトの健康との関連について、 日本だけでなくアジアなどの話を交えて解説する。また、これらの曝露による 内因性ホルモン恒常性や代謝機能の攪乱についても解説する。 <第5回> 8月7日(金) I 時限(8:50 ~ 10:20) 担当: 櫻井 健一 テーマ: 環境要因を考慮した生活習慣病の予防 ・生活習慣病のリスク因子としての環境 ・生活習慣の介入による予防 ・予防および治療介入におけるコミュニケーション <第6回> 8月7日(金) II 時限(10:30 ~ 12:00) 担当: 山本 緑 テーマ: 環境疫学とコホート研究 ・疫学研究方法 ・コホート研究の実例 ・コホート研究実施手法 <第7回> 8月7日(金) III 時限(12:50 ~ 14:20) 担当: 花里真道 テーマ: 健康都市・空間デザイン論 I ・健康と建造環境 ・研究事例 ・プロジェクト事例 <第8回> 8月7日(金) IV 時限(14:30 ~ 16:00) 担当: 鈴木規道 テーマ: 健康都市・空間デザイン論 II ・研究事例 ・フードデザート問題 ・近隣の植栽環境と健康影響 ・住環境と健康	<No.1, 2,3> August 6(Thu) I,II,III period(8:50 ~ 14:20) Lectures: Chisato Mori, Emiko Todaka, Hiroko Nakaoka Subject: ・Introduction of Sustainability Science. ・Environmental Health Science & Preventive Medicine ・Outline of new preventive medicine or public health focusing on future generations, "Sustainable Health Science" <No.4> August 6 (Thu) IV period(14:30 ~ 16:00) Lectures: Eguchi Akifumi Subject: Human health risks of persistent organic pollutants (POPs) We will explain the relationship between exposure to persistent organic pollutants such as PCBs and PBDEs to human health. We will also explain the disruption of endogenous hormone homeostasis and metabolic function associated with these exposures. <No.5> August 7 (Fri) I period(8:50 ~ 10:20) Lectures: Kenichi Sakurai Subject: Prevention of lifestyle-related diseases in consideration of the environmental factors ・Risk factors for non-communicable diseases (NCD) ・Life style intervention ・Prevention and treatment of NCD and communication <No.6> August 7(Fri) II period(10:30 ~ 12:00) Lectures: Midori Yamamoto Subject: Environmental Epidemiology and Cohort Study ・Epidemiology research method ・Actual cases of cohort studies ・Practice of cohort studies <No.7> August 7 (Fri) III period(12:50 ~ 14:20) Lectures: Masamichi Hanazato, Seminar: Healthy Cities and Spatial Design Theory I ・Built environment and health ・Research of built environment and health ・Projects of built environment and health <No.8> August 7 (Fri) IV period(14:30 ~ 16:00) Lectures: Norimichi Suzuki, Seminar: Healthy Cities and Spatial Design Theory II ・Research of built environment and health ・Food Deserts Issue ・Green space and health ・Living environment and health
授業外学習 /Self Study		
キーワード /Keywords	サステイナブル、環境と健康、未来世代、コホート調査、Town Planning	Sustainable, environmental health, future generations, cohort study,
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	適時参考書を紹介し、プリント等を配布する。	Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	出席状況、レポート等で総合的に判断する。	Students will be evaluated by attendance, reports, etc.

J276006AA	科目名【メンタルヘルスサポート学特論】	Subject【Cognitive behavioral science for mental health support】
科目責任者/Organizer: 清水 栄司 (Shimizu Eiji)	単位/Credit: 2	実施時期/Conducted: T1,T2
目的・目標 /Objectives and Goals	【目的】 医学・薬学並びに関連する専攻分野において、自立的・指導的な研究者として研究・教育に従事するための高い問題解決能力を育成するため基礎的実践を理解する。	【Objectives】 ・In the fields of medicine, pharmacy and related majors, understand the basic knowledge for developing high problem-solving skills to engage in research and education as an independent and leading researcher.
	【目標】 受講者は次の事項を実行できることを目標とする。 ・低強度の認知行動療法について説明できる。 ・精神科診断や薬物治療について理解し、質問紙を活用できる。 ・認知行動療法の技法を活用できる。	【Goals】 GIO (General Instructional Objective): students will be expected to be able to understand the low-intensity therapy. SBO (Specific Behavioral Objective): students will be able to explain the basic knowledge, which is required for cognitive behavioral therapy.
授業計画・授業内容 /Course Plans and Contents	全15回の講義からなり、授業テーマごとにオムニバス形式で講義を実施する。 第1回 4/8(水)低強度の認知行動療法とは何か？(清水先生/廣瀬先生) 第2回 4/15(水)構造化面接を用いた精神科診断(STEP1)(久能先生/高橋先生) 第3回 4/22(水)精神科における適正な鑑別診断と薬物療法(伊豫先生) 第4回 5/13(水)認知行動モデルの作成と心理教育(STEP2)(高橋先生/久能先生) 第5回 5/20(水)認知再構成(コラム法)(STEP3)(沼田先生/関先生) 第6回 5/27(水)行動の変容(行動活性化あるいは段階的曝露)(STEP4)(関先生/沼田先生) 第7回 6/3(水)問題解決法とアサーション(STEP5)(関先生/沼田先生) 第8回 6/10(水)認知療法尺度(CRS-R)によるセッションの理解(前編)(清水先生/廣瀬先生) 第9回 6/17(水)認知療法尺度(CRS-R)によるセッションの理解(後編)(清水先生/廣瀬先生) 第10回 6/24(水)不眠症のインターネット認知行動療法プログラム(廣瀬先生/佐藤先生) 第11回 7/1(水)マインドフルネス(伊藤先生) 第12回 7/8(水)服薬指導および歯科診療における認知行動療法(廣瀬先生/清水先生) 第13回 7/15(水)勇者の旅プログラム(前編)(浦尾先生/小柴先生) 第14回 7/22(水)勇者の旅プログラム(後編)(浦尾先生/小柴先生) 第15回 7/29(水)強迫症・自閉スペクトラム症の高強度認知行動療法(中川先生/大島先生)	1) April 8 (Wed) What is low-intensity therapy? (Shimizu, Hirose) 2) April 15 (Wed) Psychiatric diagnosis using semi-structured interview (MINI and MINI-Kids) and severity evaluation using questionnaires (PHQ-9, GAD-7, SCAS, DSRSC, Athens Insomnia Scale) (STEP1) (Kuno, Takahashi) 3) April 22 (Wed) Appropriate diagnosis and medical therapy in psychiatry (Iyo) 4) May 13 (Wed) Cognitive-behavioral model and psychoeducation (STEP2) (Takahashi, Kuno) 5) May 20 (Wed) Cognitive reconstruction (Column methods) (STEP3) (Numata, Seki) 6) May 27 (Wed) Behavior Modification (Behavioral activation, Graded exposure) (STEP4) (Seki, Numata) 7) June 3 (Wed) Problem Solution Training, Assertion (STEP5) (Seki, Numata) 8) June 10 (Wed) The understanding of sessions by Cognitive Therapy Scale-Revised (CTS-R) (STEP6) (Part 1) (Shimizu, Hirose) 9) June 17 (Wed) The understanding of sessions by Cognitive Therapy Scale-Revised (CTS-R) (STEP6) (Part 2) (Shimizu, Hirose) 10) June 24 (Wed) Internet-delivered computerized cognitive behavioral therapy program for patients with insomnia (ICBT) (Hirose, Sato) 11) July 1 (Wed) Mindfulness (Ito) 12) July 8 (Wed) Cognitive behavioral therapy in odontology and medication counseling (Hirose, Shimizu) 13) July 15 (Wed) "Journey of the Brave" program (1st session) (Urao, Koshiba) 14) July 22 (Wed) "Journey of the Brave" program (2nd session) (Urao, Koshiba) 15) July 29 (Wed) High-intensity Cognitive Behavioral Therapy for Obsessive-Compulsive Disorder and Autism Spectrum Disorder (ASD) (Nakagawa, Oshima)
授業外学習 /Self Study	e-learningの利点を生かし、各回の内容を繰り返し視聴し、ノートにまとめたり、関連する書籍や文献で、認知行動療法に関する知識と理解を確認したりすること	Watch the recorded contents repeatedly using e-learning, create summary notes, and check your knowledge about cognitive behavioral therapy from related books and literature.
キーワード /Keywords	認知行動療法、メンタルヘルス	cognitive behavioral therapy, mental health
教科書・参考書 /Textbooks/Reference Books	自分でできる認知行動療法(うつと不安の克服法) 清水栄司(星和書店)、勇者の旅ワークブック 浦尾悠子、MINI—精神疾患簡易構造化面接法 日本語版 5.0.0(星和書店)その他、適宜、参考書を紹介し、プリント等を配布する。	Reference books are shown, and handouts provided when required.
評価方法・基準 /Evaluation Procedures and Criteria	各回の講義について、テストを行い、総合的に判断する。	Judged by tests, etc.